

2022(令和4)年度レベル別教育プログラム

【レベル2対象】

研修名	対象者・要件	研修目標	講師	日時
＊社会の変化と保健医療福祉・看護界の動向 (注)ラダー申請予定者は必須	①看護協会 HP や協会ニュースから社会の変化や看護界の動向について情報を得てくること ②当院の2025プランを見teくること	＊国内外の保健・医療・看護・福祉の動向がわかる ＊看護の対象を個人から集団に広げて考えるためのアセスメントについて理解する ＊国内における最新の健康問題に関心を持つことができる	看護部長	6月1日(水) 13:30～14:30
＊退院調整と地域医療連携 NEW		＊患者支援センターの役割を理解する ＊対象に関わる多職種の役割を知り、チーム医療における看護師の役割を考える ＊自部署の対象の看護に学びを活用した関わりを考え実践できる	患者支援センター :淡路智子	10月25日(火)
＊診療情報管理Ⅱ「看護記録」	事前課題: 学研(基礎習得コース) 「あなたの看護記録は大丈夫ですか～何を残す?何を伝える?～」	＊診療情報管理について理解する ＊看護記録の目的を理解し、効率的に、客観的な記録を書くための自己の課題を明らかにする ＊診療情報が開示になることを踏まえた記録について理解する	各部署の教育委員 5月27日(金) 15:30～16:30 教育委員対象の研修終了後から実施	6月～8月 (部署で実施) アクションシートは、各部署教育委員が確認後、8月の教育委員会へ提出。
＊フィジカルアセスメントⅡ NEW 「対象の身体から読み取る」	①②のいずれか1回に参加でOK。	＊対象のケアに必要な身体的情報(バイタルサイン・検査値など)から状態をアセスメントすることができる ＊検査データの読み方がわかる ＊アセスメントから急変症状を予測することができる。 ＊急変時、医師の到着までに、与えられた役割について理解できる。	迅速対応チーム 師長・係長・リンクナース	① 8月31日(水) ② 9月15日(木)
＊看護倫理Ⅱ (注)ラダー申請予定者は必須	事前課題: 学研(院内全体研修コース) 「看護職のための臨床倫理～倫理的感受性を育む～」 事後課題:研修後、2か月以内に部署の倫理検討会に参加。	＊看護倫理の概要を学び、倫理的問題を客観的視点で理解できる ＊部署での倫理的問題に関心を持つことができる ＊意思決定支援や倫理カンファレンスの進め方について理解できる ＊自部署の倫理検討会で、事例の倫理的問題について看護者の倫理綱領や赤十字の基本原則に照らし合わせて考えることができる	倫理委員長 各部署の倫理委員	6月14日(火) 13:30～14:30 アクションシートは、倫理委員が確認後、指定期日まで倫理委員長へ提出。
＊看護とコミュニケーションⅡ 「働きやすいチームを作るために」	事前課題:学研(看護共育コース)「メンバーシップ・フォローシップ～みんなでつくる働きやすい看護チーム～」	＊対象の看護実践に必要な情報を共有し行動するためのコミュニケーションスキルについて学ぶ ＊カンファレンスで自分の意見を述べるができる ＊適切な報告・連絡・相談の方法について学び、チームメンバーや多職種との連携に活かす	教育委員師長・係長	8月25日(木)
＊後輩育成① 「学生・後輩育成を担う前に」 NEW	＊学生や後輩指導の機会がある人:自薦・他薦可) 各部署2名程度 事前課題:学研(看護共育コース)「プリセプターマインド～後輩とともに成長するための心構え～」	＊受容的・共感的態度について理解し実践することができる ＊学生の基礎教育背景を理解したうえで、指導的な役割を担うことができる	新人職員研修運営委員会:堀井師長	5月31日(火)

2022(令和4)年度 レベル別教育プログラム

【レベル3対象】 レベルⅢ以上を申請する者は受講が望ましい

研修名	対象者・要件	研修目標	講師	日時
＊看護倫理Ⅲ 「倫理的意思決定」 (注)ラダー申請予定者は必須 (事前課題あり、後日参加者に資料配布します)	・「看護倫理Ⅱ」を受講済みの人 ・2回とも受講すること (人数多数の場合、②のみ2回に分けて実施の予定)	第1回 ＊看護倫理の概念や考え方を理解し、今までの疑問や倫理的問題に気づき客観的に分析できる ＊分析モデルについて知る 第2回 ＊分析モデルを活用し、カンファレンスの進め方や意思決定支援のプロセスを学ぶ ＊臨床の倫理問題を明確化し解決方法を見出すことができる	倫理委員会副委員長・ がん相談支援センター がん看護専門看護師： 川原明子	① 9月7日(火) 13:30～14:30 ② 9月14日(火) 13:30～15:00 アクションシートは②終了後に講師に提出。
＊家族関係の調整の基本 NEW		＊家族関係の調整に必要な基本的知識を学ぶ ＊家族について理解(発達・役割・構造・ストレス対処等)する ＊健康・疾病移行に伴う家族の役割、家族看護における看護者の役割を理解する	清水看護副部長	7月14日(木)
＊後輩育成② 「OJT」 NEW	事前課題： 学研(看護共育コース) 「ティーチング・コーチング・ファシリテーションの基本」 「自分も相手も尊重するアサーション～ありのままの自分を伝えよう～」 事後課題：OJT 実践と評価、および課題を述べる	＊OJT の概念と、自部署における OJT のあり方を理解することができる ＊後輩指導に関する自己の傾向に気づくことができる ＊OJT を実施するうえでの自己の課題を明確にできる ＊対象に合ったケア計画や実践、評価に結び付くような OJT を、意図的に同僚に実施することができる ＊Off-JT での学習を連携させた OJT を実践できる	教育委員会師長	9月8日(木) アクションシートは、教育委員が確認後、11月の教育委員会へ提出。
＊国内外の保健・医療・看護・福祉の動向 (注)ラダー申請予定者は必須	事後課題：「グローバルヘルスに関する自己の考え」に基づき、取り組むことを述べる	＊国内外問わず人々にはそれぞれ、歴史・宗教・政治・社会・言語・慣習・ジェンダーなどがあることを理解する ＊災害時に、看護の対象を集団に広げ健康状態をアセスメントするための知識を得る ＊地域の特性に応じた健康問題には何があるか考えることができる	今野師長	8月31日(水) 13:30～15:00 アクションシートは、指定期日までに講師へ提出。
＊リーダーシップとメンバーシップ	・各部署1～2名まで。 ・全3回に参加すること ・教育委員会のアクションシートは不要(別途案内あり)	＊自己のリーダーシップ・メンバーシップの取り方について知る ＊自部署の目標と現状を分析し、業務改善につながる課題を見出すことができる(チャレンジシートに記載し、講師指定の日時・場所へ提出) ＊他部署の見学実習を通して、他者のリーダーシップ・メンバーシップのあり方を学ぶ ＊部署の管理者・メンバーと共同で部署のチーム活動に取り組み、成果を発表できる	業務委員会師長	① 6月15日(水) 13:30～14:30 ② 他部署見学実習 ③ 11月16日(水) 13:30～14:30 (実践報告会)
＊フィジカルアセスメントⅢ NEW 「急変時の対応」		＊対象の状態やバイタルサイン・検査データから考えられる変化を予測する ＊急変時においても倫理的視点で対象と関わる準備ができる ＊周囲の状況が変化する中で、リーダーに求められる役割は何かを理解する	迅速対応チーム師長・ 係長・リンクナース	11月10日(木)
研修名	対象者・要件	研修目標	講師	日時
＊冬季感染症流行期の感染管理	・看護管理者 ・レベル3取得済みの人	＊看護の対象や職員へ働きかける上での正しい知識を習得する ＊有症状者発生時の対応と病床管理の考え方について学ぶ ＊自部署の感染管理について、マニュアルに基づいて行動するようスタッフを指導できる	感染管理認定看護師： 福田恵	10月27日(木)
＊災害時の部署管理 NEW	看護係長 レベル3取得済みの人 事後課題(任意)：今年度の大規模災害時訓練に参加する	＊大規模災害時(土日の日勤想定)、自部署のBCPに基づいた発災直後の初動について学ぶ ＊自部署の必須業務や安全管理、災対本部や関連部署との連携について課題を見出し、改善策を考えることができる。	各部署師長・係長 (管理者対象「災害時の部署管理と人材育成」を受講した人)	9～11月 (各部署で実施) アクションシートは、講師の確認後、11月の教育委員会へ提出。

2022(令和4)年度 レベル別教育プログラム

【全看護師対象】

研修名	対象者・要件	研修目標	講師	日時
*他部署での見学実習 ・手術室・カテ室・救外は、学生実習や新人ローテーションと重ならない日に行うこと	・参加者は、アクションシートに研修先と自部署の師長の確認印をもらい、教育委員に提出すること	*自部署の看護に関連する部署での見学実習を行う *見学実習の学びを自己の看護実践や自部署の業務改善に活かすことができる	当該部署の 看護師長・係長・教育委員、レベル3を取得済のスタッフ	5～1月に実施 実習先の部署と師長同士で日時決定し実施 アクションシートは8月か1月の教育委員会へ提出。
*静脈注射レベル3	・「静脈注射レベル1～2」を受けた人、既卒入職者 ・ いずれか1回 に参加 ・ 各25名程度	*静脈注射の実施基準を理解する *静脈注射の実施基準に沿って安全に実施できる *実施試験に合格する *ポートの穿刺を含む	教育委員係長 研修責任者 がん化学療法認定看護師：藤原朋未・高橋一美	5月30日(月) 8月22日(月) いずれも 9:00～16:00
*看護を語る会 NEW 「看護を語って、聞いて、感性を磨こう」 各部署1回以上、必須	発表者：看護師経験20年以上の看護師(自薦・他薦可) ・自己の看護観をA4用紙2枚にまとめる。発表は10分以内。 ・1回30分程度	<講師(語る看護師)> *自己の看護の振り返りから、自己の看護観(大切にしている看護)に影響を与えた出来事や対象との関わりについて、他者に伝えることができる <参加者(聞く看護師)> *他者の語りから、様々な価値観、看護観があることを知る *語りを聞き、感じたことや考えたことを伝えることができる *自己の看護実践の内省に役立てることができる	担当： 各部署教育委員	4～1月に実施 (各部署で実施) アクションシートは(発表者は看護観も一緒に)、師長・係長の確認後、8月か1月の教育委員会へ提出。
*スキントアの発生機序とケア	全看護師	*スキントアについて理解を深め、当院の褥瘡予防対策・スキントア予防対策を実践できる	皮膚・排泄ケア認定看護師：加賀谷奈緒子・スキントアナース	9月2日(金)
*ストーマケア(基礎編)	レベルⅡを取得済み、かつ、自部署で継続的にストーマケアに携わる人	*ストーマの測定や装具の切断と貼付、剥離剤を使用した装具の剥離など、基本的なストーマケアを習得する。 *ストーマケアに難渋する患者に対し、実践に活かすことができる	皮膚/排泄ケア認定看護師：加賀谷奈緒子 ストーマケアナース	11月1日(火)
*標準予防策と感染経路別予防策の基本 *「手指衛生5つの瞬間」に基づく実践	・STEP1～3すべてを受講すること ・ 全看護師「COVID-19シリーズ②」の受講者は必須	<STEP1> *標準予防策における手指衛生・个人防护具と感染経路別予防策について正しい知識を習得する <STEP2> *「手指衛生5つの瞬間」に基づく実践ができるようにする *看護実践のリーダーとして、看護職員に手指衛生を指導するための知識とスキルを学ぶ <STEP3> *STEP1・2を実践してみよう	感染管理認定看護師 井上貴子	5月13日(金) 13:30～14:30
*看護技術を学びなおそう 「浣腸」「摘便」 「膀胱留置カテーテル」 「シリンジ採血」「小児の点滴」 「インスリン皮下注射」 「人工呼吸器」	・看護技術の再確認の機会を必要とする人および実地指導者 ・会場設営日(シミュレーター設置日)に、各自が学研手順書等の必要物品を持参し、OJTを実施する	*看護技術用シミュレーターを使用し、看護技術の基本を学びなおす。 *部署で不十分な看護技術のOJTを実践する。	各部署の実地指導者・がん化学療法認定看護師・救急看護認定看護師・急性重症患者看護専門看護師 ME	会場設営日 ①8月26日(金) ②9月30日(金) ③12月23日(金) いずれも 13:30～15:30 アクションシート不要
*看護補助者の活用 NEW	業務委員は必須	*看護補助者と協働するための基本的な知識を習得する	業務委員長	6月15日(水) 15:30～16:00
*看護補助者対象研修 NEW	*部署の看護係長・リーダナース	*看護補助者が業務を遂行するために必要な基本的な知識・技術を、研修DVDおよび学研を使用し指導する (勤務形態に合わせた研修)	看護補助者対象研修DVDを使用	配置直後の勤務日に自部署で実施
*新採用・全職員対象「BLS」		*BLS(Basic Life Support)の知識と技術を身に付けることができる	BLSインストラクター	各自で申込み
*新採用・全職員対象「RRS」		*RRS(Rapid Response System)の知識と技術を身に付けることができる	RRSインストラクター	各部署で申込み
*メンタルヘルス研修		*メンタルヘルス不調となるメカニズムやストレスマネジメント法を知る	清水師長	10月11日(火)
*学会報告会・看護研究発表会		*看護学会や看護研究で得た知見を看護職員間で共有し、各部署で活かす。	教育委員会	① 11月29日(火) ② 11月30日(水) ③ 12月5日(月) ④ 12月6日(火) 17:10～18:30
*COVID-19シリーズ① NEW		*当院でのCOVID-19の治療と経過について学ぶ	救命救急センター長 藤田医師	6月7日(火)
*COVID-19シリーズ② NEW 「対応病棟(3HCU)の実際を知る」	R2～の「標準予防策と～」 「手指衛生5つの瞬間～」を受講済みの人	*対応病棟(3HCU)で実践している感染予防対策を知る *対応病棟(3HCU)での看護や家族ケアの実際について学ぶ	3HCU 師長・係長	6月14日(火)

2022(令和4)年度レベル別教育プログラム

【教育専門コース 1】

分野	研修名	対象者・要件	研修目標	講師	日時
救急看護 ／急性・ 重症患者 看護	*急変場面の記録	全看護師	*スタッフコールやRRSコール発動時でも、正しく記録に残す看護記録の仕方を理解でき、活用できる	救急看護認定看護師・ 急性重症患者看護専 門看護師:小笠原美奈	5月17日(火)
新生児 看護	*新生児蘇生法スキルアップ コース	新生児蘇生法 A コ ース認定者 ただし、更 新期限が近い受講者 を優先する	新生児蘇生法の講義・手技演習・シナリオ演習からなる継 続学習支援コースとして開催。 *新生児蘇生法の実践力を向上することができる。	新生児集中ケア認定 看護師: 岡田智子・小林節子	開催時期未定 平日の夕方に2日間 に分けて開催予定
認知症 看護	*認知症高齢者への看護 (認知症高齢者への食事、睡眠 の援助)	全看護師	*高齢者、認知症のある患者の特徴を理解できる *入院生活で困難となりやすい食事と睡眠への援助を考 える事ができる	認知症看護認定 看護師 出雲裕子・木村麻由美	11月8日(火)
訪問看護	*事例から学ぶ訪問看護	全看護師	訪問看護や退院後指導の事例を通して、訪問看護、訪問 指導の実際を知る 看護サマリーを通して、継続看護について考える	訪問看護認定看護師: 鎌田幸子	9月22日(火)
手術看護	*術前術後の観察・ケアに活 かす周術期看護	全看護師 ・研修終了後、希望 者は後日手術室での 見学実習あり	*手術・麻酔侵襲が患者に及ぼす影響について学ぶ *術中看護を知り、術前術後の看護と関連づけて理解で きる	手術看護認定看護師: 宮内奈津美係長	①6月30日(木) ②見学実習 (日程は講師と調整)
特定行為 創傷処置	*創傷に対する陰圧閉鎖療 法について	全看護師	特定行為について学ぶ 陰圧閉鎖療法を理解し、機器の管理や創部の観察を適切 に行うことができる。	特定行為研修修了者: 藤原文子係長・ 渡邊誠也	主に消化器外科患者 が入院される病棟で の部署別学習会
合同企画					
認知症 看護 がん看護	*せん妄を「知る」から 「実践」へ —DELTA プログラム—	全看護師	*せん妄の概要とせん妄症状を知ることができる *せん妄のリスク評価、アセスメント、対応ができる *患者体験を通じてせん妄患者の想いを知ることができ る	認知症看護認定看護師 出雲裕子・木村麻由美 がん看護リソースナース	11月17日(木)

【教育専門コース 2(院内認定コース)】

分野	研修名	対象者・要件	研修目標	講師	日時
がん化学 療法 看護	*IV ナース院内認定コース (導入3年目)	全看護師 部署 1~2 名:師長の推 薦がある人	①抗がん剤投与を目的とした末梢静脈留置針・CV ポ ートの穿刺ができる ②静脈確保に関する知識と技術を習得する 内容:講義+実技 ※実践の場で技術チェックし合格後、IV ナース認定	がん化学療法看護認定 看護師: 藤原朋未係長 高橋一美	7月6日(水) 13:30~17:00
	*IV ナースフォローアップ 研修	IV ナース認定者 2021 年 9 月 18 日の研修を 受けた 2 期生全員	IV ナースとして自部署スタッフへの指導ができる ・自部署の課題を見出し部署別学習会を開催する ・投与管理(血管アセスメント)の学習会を開催する ※上記いずれか1つを選択する		各自講師に申し込み *実施日は教育委員長 に連絡する
皮膚 排泄ケア	*ストーマケアナースフォロ ーアップ研修 NEW	R2・3 年度の院内認定 コースを受講した人 別途要項参照	ストーマケアナースとしての役割を自覚し、主体的に 患者・家族及びスタッフへ適切なストーマケア指導が できる ・自部署またはストーマ外来におけるストーマケアの 実践、指導と振り返り	皮膚排泄ケア認定 看護師: 加賀谷奈緒子係長	各自講師に申し込み *実施日は教育委員長 に連絡する
	*スキんケアナース院内認 定コース	各部署1名 ①②③を全て満たす人 ①褥瘡専任看護師(経験 5年目以上)またはそれ に同等する褥瘡小委員 の経験がある人 ②レベルⅡ以上を取得 している人 ③師長の推薦がある人 別途要項参照	①褥瘡に関連した予防的ケアと治療的ケアの知識と 技術を習得できる ②部署内において、主体的にケアの実践・スタッフ教 育ができる 研修 3 回シリーズ(講義+演習)+実習 ・第 1 回スキんケアを学ぶ ・第 2 回褥瘡リスクアセスメント、褥瘡評価と褥瘡治療 ケアを学ぶ ・第 3 回体圧分散ケアを学ぶ *研修修了者対象知識確認チェック(右記④)	皮膚・排泄ケア認定 看護師: 加賀谷奈緒子係長 院内認定 スキんケアナース	① 6月20日(月) 13:30~16:00 ② 7月26日(火) 13:30~17:00 ③ 8月23日(火) 13:30~16:30 ④ 9月28日(水) 16:00~17:00(福)
	*スキんケアナースフォロ ーアップ研修 NEW	R2・3 年度の院内認定 コースを受講した人 別途要項参照	①スキんケアナースとしての役割を自覚し、スタッフに 対し適切な助言、指導ができる ②自部署での実践を振り返り、今後の活動に活かすこ とができる。 ・褥瘡回診への参加 ・部署内学習会の企画、開催	皮膚・排泄ケア認定 看護師: 加賀谷奈緒子係長	各自講師に申し込み *実施日は教育委員長 に連絡する

2022(令和4)年度レベル別教育プログラム

【教育専門コース3(がん看護実践コース)】

がん看護実践コース		めざすがん看護『その人らしく「生きる」を支える』			
	研修名	研修目標	講師	日時	
がん看護総論	がんの基礎知識	<がん患者と社会> ＊がん医療に伴う経済的負担と軽減する制度 ＊患者家族の意思決定を支える多職種連携	1.がん医療に伴う経済的問題について理解できる 2.がん患者の在宅移行支援のための人的・物的資源を理解できる	医療社会事業司	がん看護委員会
	がん看護の基礎となる考え方	<がん医療と看護倫理> ＊意思決定を支えるコミュニケーション -ELNEC-J-	1.エンドオブライフケアにおける基本的コミュニケーションについて理解できる 2.エンドオブライフでの意思決定における看護師の役割を実践できる	がん看護専門看護師:川原明子 がん看護リソースナース	11月22日(火)
	がん看護実践の基本	<がん患者とチームアプローチ> ＊AYA 世代がん患者の暮らしを支える看護	1.苦痛のスクリーニングシートを使い AYA 世代がん患者のニーズをとらえる 2.AYA 世代がん患者の暮らしを支える看護について考えることができる	がん看護専門看護師:川原明子	6月20日(月)
がん薬物療法看護	<がん薬物療法を受ける患者の生活支援> ＊「治療日誌」を活用してセルフケアの力を引き出す看護	1.がん薬物療法を受ける患者・家族の状況を包括的(心理・社会的、身体、スピリチュアル)にアセスメントし、その人らしい生活を支えるための看護を考えることができる	がん化学療法看護認定看護師: 高橋一美 がん看護専門看護師:川原明子	7月12日(火)	
	<がん薬物療法を受ける患者の生活支援> ＊がん薬物療法を受ける患者のアピアランスケア	1.自分らしさを支えるためのアピアランスケアについて理解し支援に繋げることができる	がん化学療法看護認定看護師: 藤原朋未係長	6月21日(火)	
	<がん薬物療法に伴う主な有害事象と支持療法・看護支援> ＊がん薬物療法の有害事象をケアしよう	1.レジメンに基づいた有害事象アセスメントとケアについて理解し患者に必要な技術を考えることができる	がん化学療法看護認定看護師: 藤原朋未係長・高橋一美	各部署申し込み	
放射線療法看護	<放射性治療に伴う急性事象と晩期有害事象・有害事象出現時の援助> ＊がん放射線治療の基本と有害事象のケア	1.放射線療法と使用される放射線の特性について理解できる 2.放射線治療に伴う有害事象を理解できる	放射線治療医 渡邊 磨医師	がん看護委員会	
リハビリ	<がん患者とリハビリテーション> ＊がん患者とリハビリテーション ＊リンパ浮腫のある患者へのケア	1.がん患者にとってのリハビリテーションの必要性を理解できる 2.治療や病状の変化に伴って生じる障害とその影響について理解し、(その人らしさを支える)生活機能獲得への支援ができる	リハビリテーション課 緩和ケア認定看護師:高橋知佳	がん看護委員会 後期	
緩和ケア	<がん患者の QOL に配慮した早期からの緩和ケア> ＊看取り期の鎮静について	1.鎮静ガイドラインについて事例を通じて理解できる 2.医療チームの一員として、鎮静の倫理的妥当性を検討できる	緩和ケア内科部長 小松田智也医師	がん看護委員会 8月23日(火)	
	<がん患者の QOL に配慮した早期からの緩和ケア> ＊ACP(アドバンスケアプランニング)を知ろう	1.ACP の概念を知ることができる 2.当院における ACP の在り方について考えることができる	緩和ケア認定看護師: 清水富士子・高橋知佳	5月30日(月)	
	<身体的・精神的症状と看護> ＊緩和ケアにおける疼痛 UP TO DATE	1.改訂した疼痛ガイドラインを理解できる 2.院内で使用している薬剤の特徴と使い方を理解できる 3.がん患者・非がん患者の疼痛アセスメントとそのケアについて理解できる	緩和ケア内科部長 小松田智也医師 泉谷紘平薬剤師	がん看護委員会 (7月5日)	
	<身体的・精神的症状と看護> ＊がん患者の精神症状を知ってアセスメント力を高めよう	1.がん患者に生じる精神症状(不安・抑うつ・睡眠障害・いら立ち・自殺企図・適応障害・せん妄)について理解できる 2.精神症状のアセスメントとそのケアについて理解できる	精神科部長 高橋裕哉医師	がん看護委員会	